

文字組みの黄金比

	フォント	サイズ	行間	色
タイトル	臨機応変	臨機応変	臨機応変	臨機応変
見出し	MSゴシック	11ポイント	17ポイント 縦打ちは19pt	黒
本文	MS明朝	10.5ポイント	17ポイント	黒
キャプション	MS明朝	9ポイント	12ポイント	黒

文字組みの黄金比とは

ワープロソフトやDTPソフトで文書を制作し、プリントアウトした場合、標準的な日本人に最も読みやすいフォントの数値です。フォントは条件によって使い分けるものですが、今、この文章の見出しと本文は上の表のとおりです。

ゴシックと明朝の役割

標準フォントとし使われるのが明朝で、強調される部分はゴシックです。明朝は美しく品のある書体ですが、ゴシックは無骨で、あまり上品とは言えません。ただ、目の悪い方には可読性が高く、高齢者向けの出版物にはゴシックが本文に使われることもあります。

見出しや本文が黒である理由

見出しや本文は黒です。これは印刷機の版ズレ対策です。たとえば赤い文字を刷る場合、印刷機はマゼンタ（濃いピンク）とイエロー（黄）を掛け合わせて赤を表現します。小さな文字の場合、この2版が微妙にズレてにじんだように見えることがあります。これを防ぐため、昔から黒インキ単色を指定することが暗黙の了解になっています。今は印刷機の性能がよくなり、あまり版がズレることはありませんが、すっかり習慣になってしまったようです。黒がもっとも読みやすいのも理由のひとつです。

MSゴシックとMS Pゴシックの違い

明朝にも、MS明朝と、MS P明朝があります。PはプロポーションアルのPで、Pのつくほうは文字によって幅が違いますが、Pのつかないほうは、幅が均等です。きっちり揃えたいときはMS、美しく並べたいときはMS Pを使います。この文書は見出し、本文ともMSを使用しています。

日本語と縦組みの相性は抜群

読みやすさでは、やはり縦組みが有利です。原則として日本語の長文は縦組みです。小説などの書籍もほとんどが縦組みです。ただ、アルファベットやアラビア数字が多い文書は横組みのほうが有利な場合もあります。縦組みの場合、行間を19ポイントと、横組みより若干広くとります。製本する場合は、横組みが左とじ、縦組みが右とじです。ひとつの書籍に縦組みと横組みが混在することは、普通はありません。明確なルール違反です。